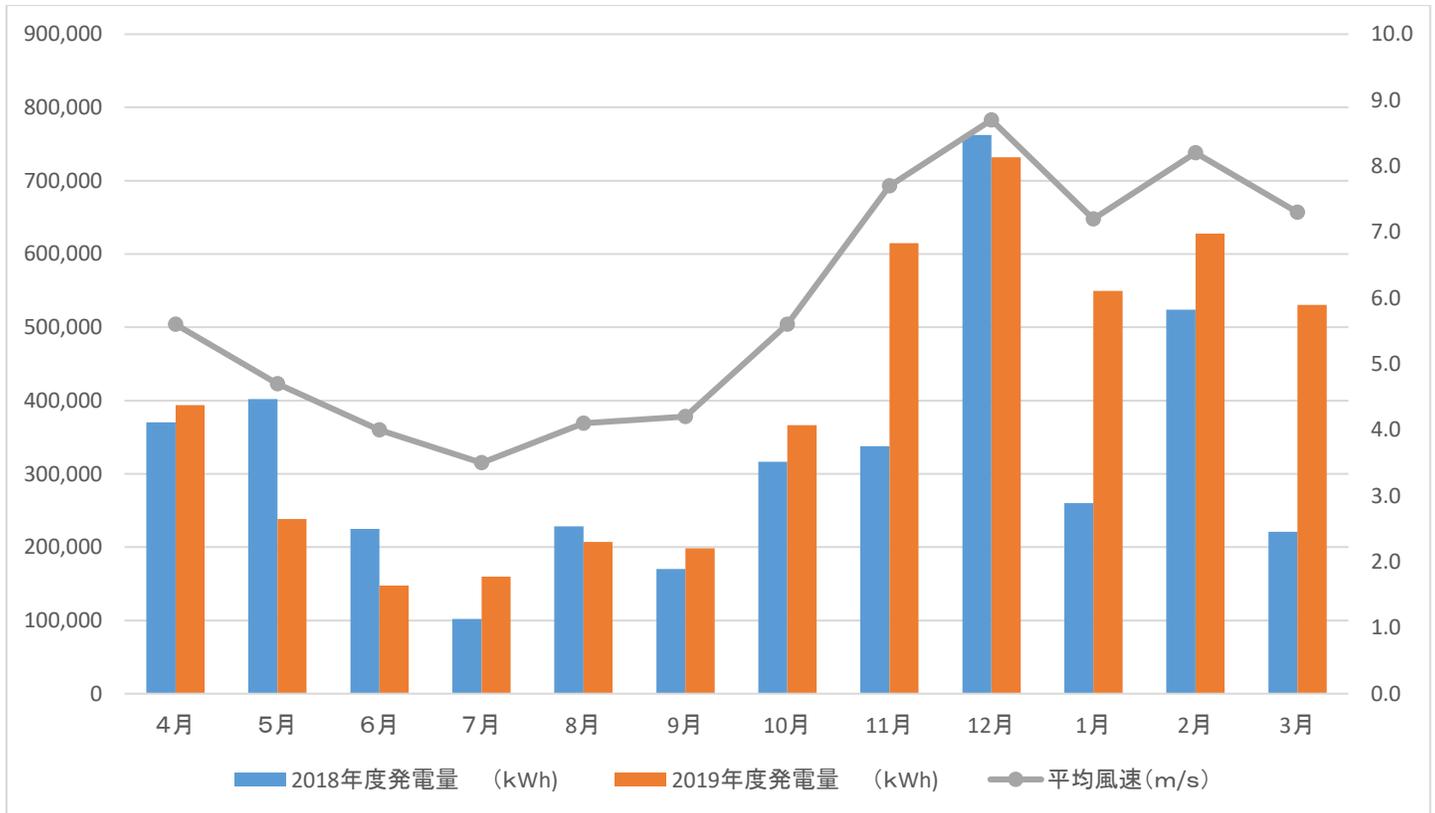


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 発電実績



3月度運転状況について

- 平均風速は7.3m/sで、前年同月に比べ0.9m/s低い実績でした。
- 前年は、増速機の軸受けに軽度な損傷が認められた為、3/2～3/21まで保安停止と部品交換工事をおこないました。
そのため、前年に比べた発電量は多くなっています。

| | 発電量 (kWh) | 平均風速 (m/s) | 稼働率 (%) |
|-----|-----------|------------|---------|
| 4月 | 393,953 | 5.6 | 98.3 |
| 5月 | 238,301 | 4.7 | 92.4 |
| 6月 | 147,508 | 4.0 | 96.9 |
| 7月 | 159,901 | 3.5 | 99.6 |
| 8月 | 207,146 | 4.3 | 97.7 |
| 9月 | 198,307 | 4.2 | 96.6 |
| 10月 | 366,622 | 5.6 | 97.8 |
| 11月 | 614,728 | 7.7 | 99.4 |
| 12月 | 732,186 | 8.7 | 99.0 |
| 1月 | 549,656 | 7.2 | 97.6 |
| 2月 | 638,017 | 8.2 | 99.2 |
| 3月 | 530,565 | 7.3 | 99.3 |

2019年度発電実績

2019年度は、暖冬の影響で年間で最も風の強い冬季の風が弱く1月から3月の発電量は少なかったのですが、年間を通して安定稼働ができたことで、計画どおりの発電実績を達成することができました。風車定期点検、受変電設備定期点検、タワー錆補修、その他定期的な作業を計画通り実施しました。2020年度も、オペレーションとメンテナンスを委託している(株)市民風力発電と連携して、丁寧な運転管理を進めます。

- ・年間発電量 4,766,890 kWh 計画比 100.8% (前年比 121.6%)
- ・平均風速 5.9m/s (前年比 95.2%) ・稼働率 97.8% (前年比 119.0%)
- ・設備利用率 27.3% (前年比 120.3%)

2019年度にかほ市の物産取組み実績

生活クラブ東京、神奈川、埼玉、千葉の班個別配送やデポで年間を通じて「夢風ブランド品」の取組みを実施しました。

「夢風ブランド品」は、生活クラブ風車「夢風」を縁とした地域間連携によるにかほ市の生産者と生活クラブの組合員が共に開発企画に関わった品目です。2019年度の夢風ブランド品は、(株)飛良泉本舗の「純米大吟醸 夢風」、伊藤製麺所の「タラーメン」、日南工業(株)の「鱈しょっつる」、(有)三浦米太郎商店の「はたはたおいる漬け」の4品です。

また、年1回、夢風ブランド品に加えて、にかほ市の物産の取組みを行いました。班個別配送では、伊藤製麺所の「象潟(きさかた)うどん」、四つ葉ネットワークの「無添加甘酒」、幸月堂菓子舗の「いちじく羊羹」、佐藤勘六商店の「ドライいちじく」を取り組みました。デポでは、にかほフェアとして、象潟うどん、無添加甘酒、ドライいちじくに加えて、三浦米太郎商店の「塩漬けハタハタの燻製」「はたはた飯の素」、日南工業の「鮭しょっつる」「秋田味噌」、でんべいかれい生産グループの「エビっこ炙り」、幸月堂菓子舗の「風車の見える街サブレ」、(株)秋田ニューバイオファームの「きりたんぼ」、道の駅象潟ねむの丘の「秋田犬マサル」のぬいぐるみを取り組みました。

2019年度、生活クラブ4単協でのこれらの共同購入の総額は、組合員価格(税抜き)で約1,600万円の実績となっています。

にかほ市に2基目の生活クラブ風車建設へ



生活クラブは、芹田地区の「夢風」につづき、にかほ市で2基目となる風車建設計画をにかほ市院内で進めてきました。

(写真:建設予定地の風況観測ポール)

生活クラブは、持続可能な社会を目指し、食(F)エネルギー(E)ケア(C)の自給圏づくりを進めています。エネルギーについては、総合エネルギー政策でエネルギーを「減らす、作る、使う」を柱とすることを確認し、電気の小売り会社「(株)生活クラブエナジー」を通じて再生可能エネルギーを中心とした電気を組合員に供給しています。

再生可能エネルギーは、2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)では持続可能でよりよい世界を目指す目標の中核をなすものです。再生可能エネルギーを推することで地域に分散型で、地域の人をつなぎ経済の循環を進め地域を豊かにすることが可能です。

山、海、風など豊かな地域資源に恵まれたにかほ市での2基目の風車

建設をつうじて、「夢風」で実践してきた、エネルギーを通じた地域間連携をさらに発展させ、再生可能エネルギーを活用した地域の住民のためになる事業や人づくりを、地域の方々と連携して進めていきたいと考えています。

現在、東北北部エリア電源接続案件募集プロセスが部分完了し、2月に東北電力(株)へ系統連系申込み手続を行っています。また、3月より環境アセスに準じた調査を実施しています。

生活クラブでは、4月に、新しい風車のSPCとなる「株式会社生活クラブにかほ院内風力発電」の発起人会を開き、会社設立の準備を進めています。

2019年(暦年)の自然エネルギー電力の割合(速報)

出典:環境エネルギー政策研究所(ISEP)

○国内の全発電量に対する自然エネルギーの割合

電力調査統計やFITおよび全国の電力需給データなどより2019年の日本国内の全発電量(自家消費を含む)の電源別割合を推計した。

その結果、2019年(暦年)の日本国内の自然エネルギーの全発電量に占める割合は前年(2018年)の17.4%からおよそ1ポイント増加し18.5%に増加した(図1)。

その中で、太陽光発電の発電量は、前年(2018年)の6.5%から7.4%へと増加しており、第5次エネルギー基本計画(2018年7月閣議決定)が2030年度の電源構成で想定している導入割合(7%)をすでに達成したことになる。風力発電の割合0.76%と合わせると、VRE(変動する自然エネルギー)の割合は、前年(2018年)の7.2%から8.2%に増加した。

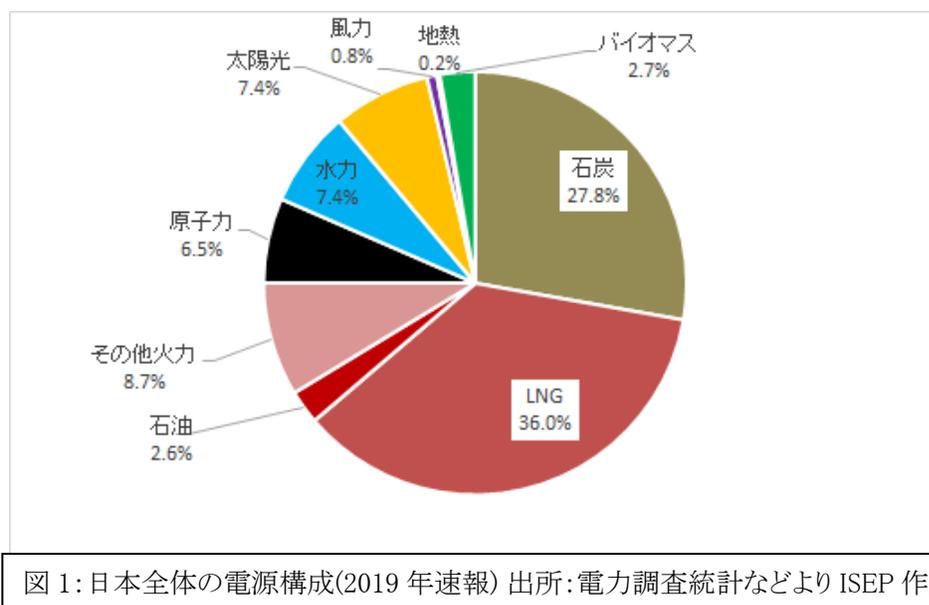


図1: 日本全体の電源構成(2019年速報) 出所: 電力調査統計などより ISEP 作成

○欧州各国との自然エネルギーの割合の比較

主要な欧州各国の自然エネルギーによる2019年の発電量の割合の内訳を図4に示す。変動する自然エネルギー(風力および太陽光)VREの割合がすでに50%以上に達しているデンマークでは年間発電量に占める自然エネルギーの割合が約84%に達した。一方、変動が小さい水力の割合が高い国としてはオーストリア、スウェーデンが年間発電量に占める自然エネルギーの割合が60%以上に達している。ポルトガルは自然エネルギー割合が50%を超えてVREの割合も約28%に達しているが、イタリア、ドイツ、イギリス、スペインにおいても自然エネルギーの割合が40%前後にまで高まっている。原発の比率が70%に達するフランスでは自然エネルギーの割合は20%程度。

日本は、温室効果ガスを多く排出する石炭火力が27.8%と非常に多く、自然エネルギーの割合は18.5%まで達したが世界と比べるとまだまだ少ないことがわかる。

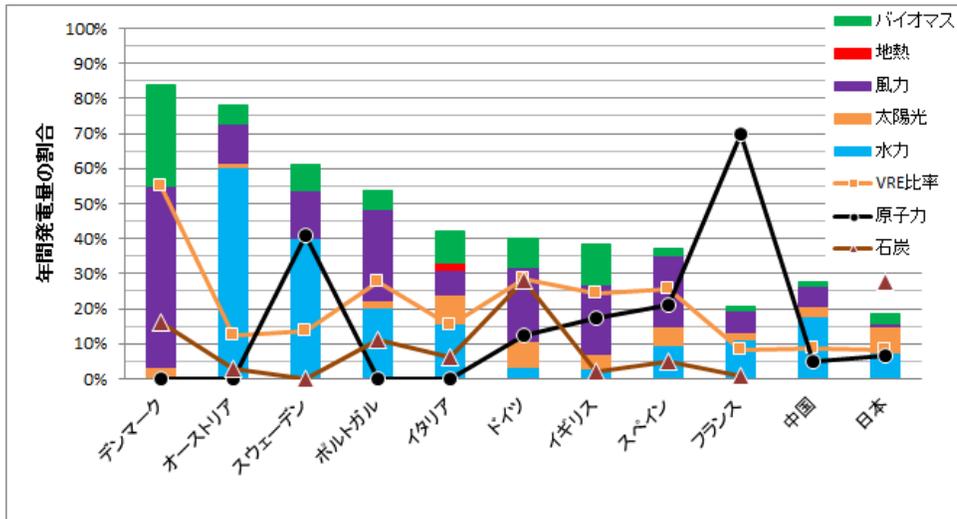


図4:欧州各国および中国・日本の発電量に占める自然エネルギー等の割合の比較(2019年) 出所: Agora Energiewende, China Energy Portal, 電力調査統計などのデータより ISEP 作成

コラム 2019年度版「永続地帯」市町村に秋田県にかほ市

千葉大学倉阪研究室と認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所は、日本国内の市町村別の再生可能エネルギーの供給実態などを把握する「永続地帯」研究を進めています。「永続地帯」とは、域内の民生・農水用電力需要を上回る量の再生可能エネルギー電力を生み出している地域です。2020年4月7日、2019年度版報告書が公表されました。

今回の試算の結果、以下の事実が明らかになりました。

- ・前年度と比べて2018年度の太陽光発電の発電量は16%、風力発電は9%、バイオマス発電は5%増加。一方、小水力発電は横ばい。地熱発電は減少。再生可能エネルギー熱の供給は、ほぼ横ばい。
- ・2011年度から2018年度にかけて、国内の再生可能エネルギー供給量は約3.3倍に増加。
- ・域内の民生・農林水産業用エネルギー需要を上回る再生可能エネルギーを生み出している市町村(エネルギー永続地帯)の数が、2018年度に119になった。
- ・さらに、エネルギー永続地帯119市町村のうち、食料自給率も100%を超えた市町村(永続地帯市町村)は70市町村に到達。今回、はじめて、石川県と愛知県でも永続地帯の市町村が確認された。(表2)

表2 永続地帯市町村一覧

| |
|--|
| <p>【北海道：13】 稚内市、紋別市、森町、上ノ国町、蘭越町、二セコ町、苫前町、幌延町、壮瞥町、安平町、様似町、豊頃町、白糠町、</p> <p>【青森県：4】 深浦町、横浜町、六ヶ所村、東通村、【岩手県：4】 八幡平市、雫石町、葛巻町、二戸郡一戸町、</p> <p>【宮城県：2】 蔵王町、七ヶ宿町、【秋田県：3】 鹿角市、にかほ市、八峰町、【山形県：3】 朝日町、大蔵村、遊佐町、</p> <p>【福島県：2】 下郷町、柳津町、【栃木県：3】 那須烏山市、塩谷町、那珂川町、【群馬県：3】 長野原町、端恋村、昭和村、</p> <p>【富山県：1】 朝日町、【石川県：2】 珠洲市、宝達志水町、【山梨県：1】 北杜市、【長野県：6】 小海町、長和町、飯島町、大鹿村、信濃町、栄村、【愛知県：1】 田原市、【三重県：2】 木曾岬町、多気町、【鳥取県：1】 伯耆町、【岡山県：2】 鏡野町、久米南町、【愛媛県：1】 久万高原町、【高知県：1】 大月町、【熊本県：6】 小国町、西原村、山都町、錦町、水上村、相良村、</p> <p>【大分県：2】 豊後大野市、九重町、【宮崎県：3】 川南町、都農町、五ヶ瀬町、【鹿児島県：4】 長島町、湧水町、南大隅町、肝付町</p> |
|--|

「永続地帯市町村」：域内の民生・農水用エネルギー需要を上回る量の再生可能エネルギーを生み出している市区町村であって、カロリーベースの食料自給率が100%を超えている市町村。赤字は、2018年度にはじめて永続地帯市町村となった箇所。

秋田県にかほ市は、2018年度報告書から引き続き、2019年度も、地域のエネルギー需要を上回る再生可能エネルギーを生み出し、かつ食料自給率も100%を超えている永続可能な市町村として選ばれています。

(文責 事務局長 鈴木)